

令和元年度「奈良県食育推進会議」資料を見ていただき、お気づきの点及び今後の方向性についてのご意見

(令和2年3月)

委員からのご意見(抜粋)

食育推進ロゴマークや「奈良県食育推進会議」を積極的に活用し、県民が目にする機会をつくる。

ほとんどの取り組みを知らなかった。どのように周知していくかが課題

奈良県が減塩と野菜摂取の増加に力を入れていることを、もっと広く県民に知ってもらう

食に関するイベント等を保健所や市町村で同時に開催して県全体で盛り上げる

「げんえもん」「減塩ソング」は一部では浸透している。会議で活用方法を検討してもよいのではないか。

「やさしおベジ増しプロジェクト」を高齢者の配食サービス業者に参画してもらう

一過性のイベントでなく、学校給食の機会を活用し、子どもたちに継続した学習機会をつくる

学校給食による取り組みは素晴らしいと思うが、大学生や親世代の食生活は気になるところ。特に、経済面に左右される。

食育の一番の目標は、県民が自分に適した「食」を選択し、それを実行すること。そのために、将来を担う子どもたちがしっかりと食選力を身につけること。



県民への周知を強化



県民にわかりやすいメッセージを発信



子ども・家庭に対して重点的に取り組む

資料4